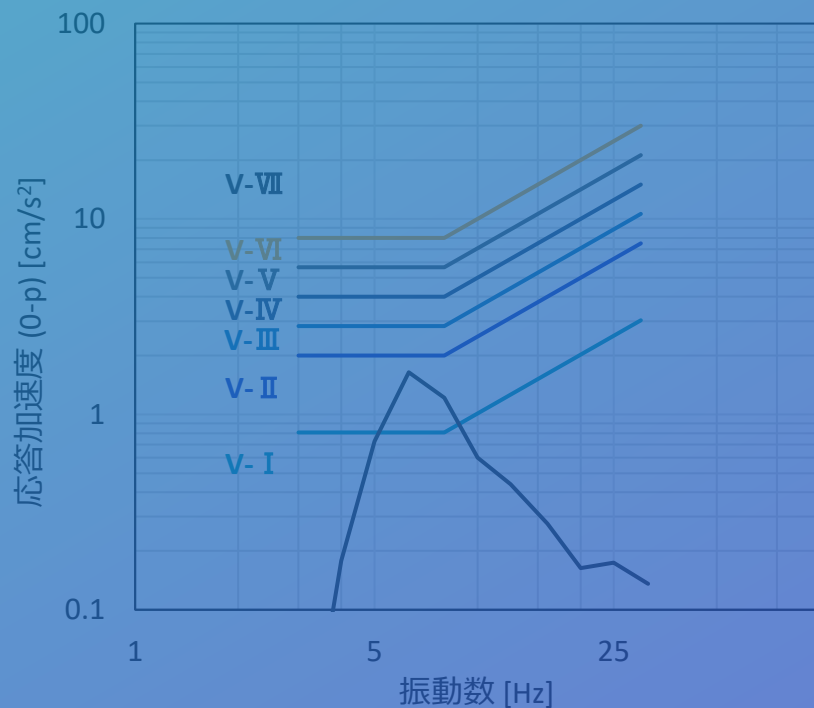




業務に役立つ！ 居住性能評価指針の 見方・使い方 (鉛直振動)



目次

● はじめに	3
● 居住性能評価指針（規準）とは	4
● 制定背景・変遷	5
● 1991年版	6
解説、実際の評価例	
● 2004年版	9
解説、1991年版との比較、実際の評価例	
● 2018年版	12
解説、2004年版との比較、実際の評価例	
● ショールームのご案内	18

はじめに

近年、建物の居住性や快適性への関心が高まっており、日常的に発生する振動から居住性能を確保することが重要になっています。

そのため、各建物に求められる性能を個別に吟味し、建築主や居住者と適切な目標性能を設定し、その性能レベルを満足する設計をする必要があります。

そこで、居住性能の評価基準である「人の知覚や感覚などの主観的な要素」と、「振動の物理量」を対応させた評価ができ、建築主や居住者などの専門家でない人にもわかりやすく説明できるツールが求められます。

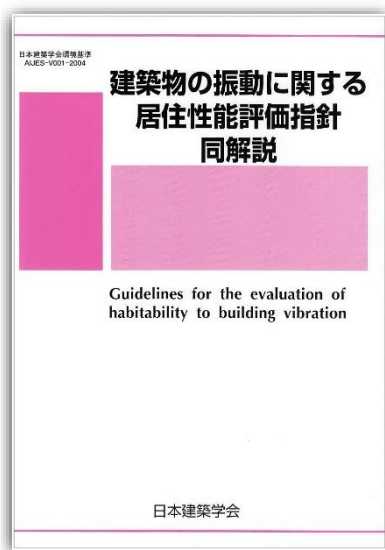
そのツールとなるのが「居住性能評価指針」です。

本資料では鉛直振動の評価指針を取り上げ、「居住性能評価指針とは何か？」
「どのように評価するのか？」「改定によって何が変わったのか？」など押さえておきたいポイントをまとめました。

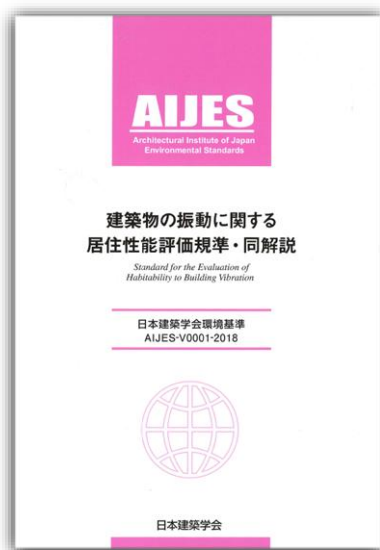


居住性能評価指針（規準）とは

建物内の日常的な振動を 「居住性」の観点から評価するための指針



2004年版

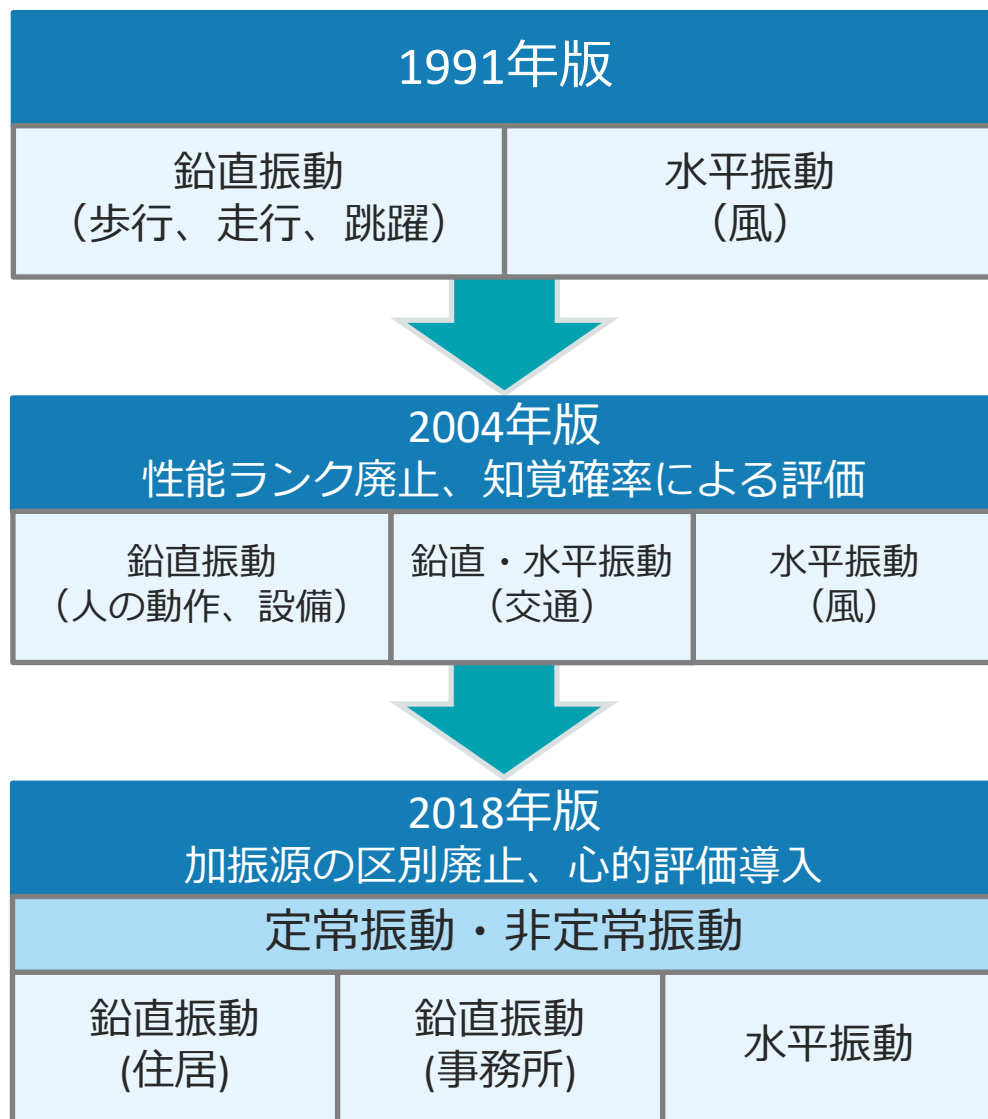


2018年版

振動に関する居住性についての関心が高まるなか、日常的な振動を評価するための国内初の指針として1991年に日本建築学会が制定しました。

2004年と2018年に改定が行われ、最新版では居住性能評価規準として「指針」から「規準」に名称が変更されました。

制定背景・変遷



振動に関する居住性についての関心が高まり、「強風に対する高層建築物の居住性の恕限度を示して欲しい」という要望が作成のきっかけにあります。

1991年版では、歩行・走行・跳躍などの人の動作や設備機器による鉛直振動と強風による水平振動に関する指針を示しています。

2004年版では、道路、鉄道などの交通振動が新たに対象として加わりました。また、柔軟に設計できることを目的に性能ランクを無くし、居住者や建築主にわかりやすい説明ができるように知覚確率による性能評価に改定されました。

2018年版では、設計的要素を切り離し「規準」と名称を変更しました。近年の振動問題が様々な要因から起こることから、加振源で区別せず評価できるように共通化し、「気になる・不快」などの感覚的な評価規準が加わりました。また、振動の継続時間によって感じ方が異なることから定常的か非定常的な振動かを考慮する評価となりました。

続きが気になる方は 会員登録(無料)をお願いいたします。

資料はヤクモ会員登録後(無料)に
マイページよりダウンロードいただけます。
この他にも様々な資料がございますので、
ぜひこの機会にご登録下さい！

会員登録はこちら



HP : <https://www.yacmo.co.jp/>

✉ yacmo-ma@yacmo.co.jp